

# 令和元年度山梨県南都留地域フォーラム提案書

第3分科会

山梨県立都留興譲館高等学校

教諭 田辺 勇

## 地域社会との連携について

はじめに

山梨県立都留興譲館高等学校は、平成26年4月に開校し、今年で創立6年目を迎える新しい学校であるが、谷村工業高等学校、桂高等学校を再編して創設された学校なので両校の伝統や理念を強く受け継いでいる。本校は普通科、英語理数科、機械工学科、電子工学科、情報工学科、環境工学科の6学科を擁する専門制高校であり、都留市内にある唯一の高校として地元にながら教育活動を目指している。

### 1. 本校の連携の状況（抜粋）

#### 【小学校との連携】

宝小学校への英語出前授業

宝小学校からの都留興譲館高校訪問 10月29日（火）

**親子ものづくり教室 8月10日（土）**

#### 【中学校との連携】

**オープンスクール 8月24日（土）**

中学生の部活動体験会 8月25日（日）、9月7日（土）

#### 【大学との連携】

英語理数科生徒が都留文科大学の教育系授業へ参加

都留文科大学留学生が本校の総合的な学習の時間、総合的な探究の時間へ参加

都留文科大学生のフォローアップ研修を本校で実施

健康科学大学との連携講座（思春期講座、福祉体験講座など）

産業技術大学校、神奈川工科大学等との連携あり

#### 【地域関係機関との連携】

インターンシップ 7月25日（木）～31日（水）の3～5日間

**高校生災害ボランティアスクール 9月6日（金）**

1日看護師体験（富士・東部保健福祉事務所ほか）

赤ちゃん抱っこ体験（都留いきいきプラザ）10月2日（水）

ガス溶接講習会 7月29日（月）、30日（火）

先輩による授業（都留青年会議所）8月22日（木）



## 2. 親子ものづくり教室

令和元年8月10日(土)に都留興譲館高校と南都留地域教育推進連絡協議会の共催で第16回「親子ものづくり教室」が本校を会場に行われた。

この企画の趣旨は次のとおりである。

- (1) 異年齢間の連携・交流を通して、児童生徒の社会性や思いやり・助け合いの心をはぐくむとともに、親子間の絆を深める。
- (2) 教えることの楽しさや難しさを知り、児童・保護者とのふれあいを通して、地域社会の一員としての自覚を促すとともに、ものづくりの体験を通して科学への興味関心付けを行い、科学の面白さを発信する。
- (3) 地域の人々や児童生徒向けの学習機会を提供することにより、開かれた高校としての高等学校の持つ新しい教育機能を総合的に発揮する。

今年度は、「燃料電池カーの製作」、「制御ロボカーの製作」、「メタルプレートの製作」、「透明樹脂を用いたアクセサリの作成及び電子顕微鏡観察体験」の4つの講座に18組36名の児童・保護者が参加した。本校からも教員以外に16名の生徒がミニ先生として参加した。

製作の指導はミニ先生が中心となって行ったが、普段、交流の少ない小学生と高校生なので、最初はお互いに緊張してぎこちなさが見られた。それでも、時間が経つにしたがって、高校生の指導の仕方もうまくなり、和やかな雰囲気の中で教室が進行していった。小学生も細かい作業に苦戦していたが、ミニ先生に優しく教えてもらいながら作品を完成させていった。ものづくりの楽しさを十分に満喫したようである。

参加した児童・生徒・保護者全員がこの企画の趣旨を十分に感じられたと自負しているが、本校の課題としては、参加希望が多数寄せられるのに18組36名しか受け入れられないことである。受け入れ体制の見直しなど改善をしていきたい。また、工業科のものづくり教室だけでなく、普通科、英語理数科の生徒が参加できるような科学実験教室や英会話教室なども併せて検討していきたい。



### 3. 高校生災害ボランティアスクール

令和元年9月6日（金）に本校で高校生災害ボランティアスクールが行われた。これは、高校生を対象に、災害ボランティアに関する講演、実技指導等を行なうことで、自らの身体を守る必要性を学び、災害ボランティアに関する認識を深めるとともに、具体的な災害ボランティア活動の実践に役立てることを目的とした企画である。

社会福祉法人都留市社会福祉協議会、谷村地域協働のまちづくり推進会、山梨県立都留興譲館高等学校の主催で行われ、協力団体として都留市、都留市消防本部、都留市赤十字奉仕団、東日本電信電話株式会社山梨支店、都留市災害ボランティアセンター運営検討委員会、地区ボランティアコーディネーター、一般社団法人山梨県聴覚障害者協会、山梨県立聴覚障害者情報センター、山梨県視覚障害者協会都留支部、山梨県立防災安全センター社会福祉法人都留市社会福祉協議会、谷村地域協働のまちづくり推進会などが参加した。

都留興譲館高校の生徒のために、関係機関の協力のもと、多くの方に参加して頂き、開催されたことをこの場を借りて感謝申し上げます。

午前中は、1年生173名が「防災グッズ」、「聴覚障害者避難誘導訓練」、「救命講習」、「高齢者理解」、「視覚障害者避難誘導訓練」、「搬送訓練」、「起震車体験」、「普通救命講習会」の8つのプログラムの中から3つを講習する形で行われた。一つ一つのプログラムが20名から25名程度の小人数で行われ、講師の先生方が熱心に指導して下さり、生徒達も真剣に取り組んでいた。

午後は、全校生徒を対象に講演会が行われた。若草地区災害・防災ボランティアの皆様による「日頃から備えることの大切さ～寸劇から学ぶ災害対策について～」をテーマにした寸劇を鑑賞した。寸劇とはいえ、日頃からの近所の方とのコミュニケーションの大切さ、災害に備えた防災グッズの必要性などを学ぶことができた。

1部ではあるが生徒の感想を紹介すると「災害のときに必要であろう、聴覚に障害のある方の誘導の仕方や防災グッズの講習を受けた。どれも災害時に非常に大切になってくるのでもし災害が起きたら活かしたい」、「今日一番大切だと思ったことは、声を掛け合うこと。お互いに助け合おうと言っても、行動を起こさなかったり、声をかけなければ始まらない、周りを見るよりもまずは自分から行動していきたいです」、「劇の中で私たちが実際に災害にあったときに役立つことがたくさん出てきて参考になった」などである。生徒に災害ボランティアの意識が芽生えたのが感じられた。



#### 4. オープンスクール

中学生を対象に8月24日（土）にオープンスクール、8月25日（日）と9月7日（土）に部活体験会を実施した。

8月24日のオープンスクールは昨年まで別日程で行われていた学校説明会とオープンスクールを一つにし、1日で開催する形に変更して行い、中学生・保護者を合わせて約400名の参加者があった。

午前は工業科のオープンスクールである。機械工学科のプライス盤、旋盤、ソーラーカー、ガソリンエンジン、電子工学科のハード実験、ソフト実験、制御工学科のメカトロニクス実習、3Dプリンタ、環境工学科の石造りアーチ橋の作成、機器分析実習の見学会を行った。

新しい校舎、最先端の技術に中学生は圧倒されていたようである。午後は普通科、英語理数科のオープンスクールで、国語、社会、数学、理科、英語の体験授業を行った。中学生は1人2回ずつ授業を受けることができた。

また、見学会・授業の前や合間に学校紹介ビデオ、卒業生インタビュービデオなどを上映した。

中学生の感想を紹介すると、「学科が聞いていたよりも沢山あってすごかったです。」

「映像がすごく作り込まれていてとてもこの学校に行きたくなりました。」

「強度の高め方がわかった。橋を作っていたのがすごかったです。」

「立体物を作り出すのを見て楽しそうと思った。自分もやってみたい。」

「自分でロボットを作りたいと思った、もともと興味があってもっと興味がわいた。」

「マシュマロを一瞬で凍らせて液体窒素のすごさが分かりました。バナナで釘を打てたのはびっくりしました。」

「他の中学校の人と話をしながら考える事が出来て良かったです。」などである。



#### 5. 今後の課題

本校では、普通科・英語理数科と大学との連携、工業科と産業界との連携は充実しているが、小学校や中学校との連携が弱い。地域全体で子どもたちを育てる視点から、積極的に地域の小学校や中学校に働きかけ、充実を図って行きたい。